

高松学習館運営協議会（令和4年4月）会議録概要

開催日時 令和4年4月27日（水曜日）午前9時30分～午前11時

開催場所 高松学習館 第2教室

出席者 〔委員〕 神山敬章（前明星大学教授）

小林理哉（立川市社会福祉協議会）

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

服部裕美（高松児童館）

橋本登（立川市市民交流大学推進委員会）

小倉亮一（立川市市民交流大学推進委員会）

難波敦子（学習館利用団体）

栗原政子（学習館利用団体）

結城まり子（学習館利用団体）

欠席 2名

〔事務局〕 庄司康洋（生涯学習推進センター長）、

榛澤尚武（高松学習館係長）、富田瑞代（高松学習館市民嘱託）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

議事

1. 会長あいさつ

皆さん、おはようございます。年度が変わり、高松学習館に新しい係長、前任の係長も職員として残り、安心感が持てる。今日は東京学芸大学の倉持先生（生涯学習推進審議会・錦学習館運営協議会）と東京学芸大学の学生さん2人が来られている。後ほどお話をいただきたい。

2. 生涯学習推進センター長あいさつ

4/1付けで庄司生涯学習推進センター長が着任。皆さんで円滑な運営ができるよう精進していきますのでよろしくお願ひしたい。市役所で調整会議があるため、あいさつ後に退席。

3. 報告事項

・事務局より下記について報告があった。

・人事異動：学習館の職員体制（4/1付けで榛澤係長着任）、地運協委員交代（4/1付けで高松児童館・服部館長着任）。地域福祉コーディネーター2名体制となった。（地運協は小林委員が5/末迄、第7期6/1～吉田さんが担当）

・感染症対策：4月25日（月）～5月22日（日）まで、東京都による「リバウンド警戒期間」が延期された。利用者には引き続き、感染症対策の徹底について協力をお願ひしている。

・Wi-Fiの導入について 施設関係の工事は3月末で終了し、生涯学習推進センター内で運用方法について検討している状況。

Wi-Fi利用可能な教室と利用開始時期について質問があった。早急な利用開始に向けて委員より要望があった。

4. 協議事項

（1）前回議事録（案）について 承認された。

(2) 文化祭について：4/7 作品展第1回準備会、4/8 演奏会第1回調整会議の内容について事務局と出席委員（作品展は難波副会長、演奏会は梅田会長）より報告があった。

・6月演奏会は控室の密を避けるためにも今年度も中止と決定した。音楽サークルを紹介する動画を立川市の公開チャンネルにアップできないか、取り組んでいくことになっている。次年度は、感染症状況によっては2回に分けて実施することも検討する。

・5月作品展は参加サークルの数は減っているが、広々としたスペースで感染症対策をしながら実施することになった。準備会でサークルからいろいろな意見が出たので活かしていきたい。和室と保育室が空き室となっているので良い利用方法がないか意見をいただきたい。参加団体の中で生け花サークルは子ども達の作品を展示するので、若い世代の来場を期待している。今年度の作品展パンフレットの表紙は生け花サークルの作品の写真提供と書道サークル会員に題字をお願いした。作品展パンフレット掲載用の原稿案（地運協あいさつ文と紹介文）の校正について協議した。

・他の地運協では委員の顔が見えるように集合写真の展示がある。利用者から顔が見えて親近感を持っていただけた。高松でも地運協委員の集合写真展示について提案があった。さっそく本日の会議の後にデジカメで撮影することになった。

・ワークショップで配布するアンケート用紙の修正箇所について委員より指摘があった。よくなかったという回答については理由を記入してもらって次回に活かしていく、記入する箇所が多いと負担になるので一つ位で、文章を簡素化して言葉をわかりやすくする、句読点を揃えるなど。

・千代紙人形づくりはキットで簡単に作れるように講師が工夫してくれた。以前はお茶とお菓子でおもてなしをしながら竹の子の形のフリーアンケート用紙に感想や意見・要望などを記入していただいたが、感染症対策でお茶は提供できないので個装のお菓子と千代紙人形をお渡しする形となる。

・これまでフリーアンケート用紙にお手洗の洋式化、Wi-Fi導入などの意見をいただいたものを地運協でまとめて市の方に要望書を提出して実現している。

・和室は例えば囲碁大会など、毛色の違うことをしてもいいのではないか。

5/22 作品展最終日に実施する地運協ワークショップの内容と当日スタッフの確認をした。5/22は午後1時集合。当日スタッフ：難波委員、栗原委員、結城委員（会議後に追加で吉田委員）

・作品展の展示の撮影は小倉委員が担当する。（5/21）

(3) 地域活性化事業：今年度実施予定の事業について確認した。

・東京学芸大学との連携事業について、同大学の倉持先生より説明があった。社会教育を学ぶ学生が社会教育施設で地域の方々と協働企画で事業を実施しており（生涯学習演習の授業の一環、学生が地運協委員や市民リーダーと連携して地域活性化事業の企画および実施したいという提案があった。大学のカリキュラムの関係で、7月末～8月初旬に1回、10月頃に1回実施できないかとの要望を受け、今後一緒に市民向け事業の企画と実施について取り組んでいくことになった。地運協委員と東京学芸大学の方より下記のとおり意見交換をした。

・市民リーダー会は市内でいろいろな分野で特化した技術を持っている方の集ま

りで約 100 名登録している。ぜひ掘り起こして講師として活用していただきたい。

・高松では子ども科学あそび隊という子ども講座で東京学芸大学の学生に関わってもらっているが、コロナ禍で 2 年続けて中止となっている。ぜひ学生の方々に学習館事業に関わっていただきたい。

・立川市でも 4 月からヤングケアラーに対して支援について対応する窓口ができた。周知についても今やっているところで、4/25 号広報に掲載された。まだまだ周知が不足しているので、ひきこもりに関して対応する窓口があるということを、学生さんのアイデアで広く周知できるよう企画をしていただけたとありがたい。

・幸学習館のかわせみカフェで児童館の子ども達が工作などをとおして世代間交流をとても楽しんでいた。

・市民推進委員会とのコラボも検討していただきたい。

過去に市民推進会と連携して立川市に住んでいる外国人の方達、多文化共生に関連する講座を実施した。

・第六次生涯学習推進計画施策対比表を参考にすると、高松学習館は幅広い世代に向けてさまざまな事業を実施している。また世代を超えて、障害者理解の事業を実施している。地域に宣伝していく、周知の面で課題がある。施策項目でできていない弱い部分もあるので参考にしていただきたい。

・学生の方も試行的な取り組みで紙の上の知識から実践させていただけたらと願っている。

・実践的な、フィールドワークとして、学生に企画立案を丸投げではなく、学生の視点と地連協委員の視点をすり合わせ、地域の特性、市民のニーズがどこにあるのかと一緒に学習していくことが大事。情報の共有をしながら何ができるかお互いにプログラムの実践の場としていく。学生もプログラムを実施する経験をとおして社会でも活かせることにつながっていく。

・今日の会議でお聞きしたこと（高齢化でサークル減少している等）を持ち帰り、学生間でも世代間交流など企画テーマを検討していきたい。

・情報交換しながらやっていけるということで心強い。

(4) その他

・「平和都市宣言 30 年」企画について 担当委員として梅田会長を選出した。

・第 7 期地域学習館運営協議会について 事務局より承諾書の提出依頼があった。

5. その他

・次回会議日程について確認した。

令和 4 年 5 月 25 日（水）午前 9 時 30 分～11 時 高松学習館

・第 7 期の開催日程について確認した。

6. 地域課題共有

・社会福祉協議会より配布資料「まちねっと」、パラフープフェス（イベント）の案内があった。

・市民リーダー講座 5/16（カーペンターズの歌で英語を学ぼう）の実施について紹介があった。初日で定員に達した。

・地連協ワークショップ「千代紙人形づくり」のデモンストレーションを本日出席の委員と東京学芸大学の学生で体験した。

以上